

令和2年度
こころ医療福祉専門学校
学校自己評価結果報告書

令和3年4月1日

令和3年2月5日（金）令和2年度学生・教職員アンケート実施
令和3年3月3日（水）令和3年度学校経営目標 運営会議議題提出
令和3年3月17日（水）令和2年度学校自己評価報告書 運営会議提出
令和3年3月24日（水）学校自己評価報告書 本部提出

※教職員・学生アンケートと学校自己評価との連動基準

教職員・学生アンケート評価基準3.1～4.0 → 学校自己評価「4」

教職員・学生アンケート評価基準2.1～3.0 → 学校自己評価「3」

教職員・学生アンケート評価基準1.1～2.0 → 学校自己評価「2」

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン
（平成25年）準拠

1. 学校の教育目標 令和2年度

- 1 ビジョン
地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる
- 2 ビジョンの実現に向けたテーマ
地域社会から必要とされる組織であり続ける
地域社会から必要とされる人材を提供する
- 3 学校経営スローガン
各学科の「専門力を含めた人間としての総合力」の育成
- 4 重点教育目標
(1)「授業の充実」を通じた「教育の質」の向上
(2)国家試験合格率及び就職率100%達成
(3)「委員会制」の充実による学校活性化
(4)留学生指導の充実とJLPT3級以上合格者の増加
(5)学校体制として取り組む学生募集-最低確保学生数:130名
- 5 具体的な対策
(1)「授業の充実」を通じた「教育の質」の向上
(2)豊かな人間力の育成
(3)退学者・不登校生の減少対策の推進
(4)国家試験・進路指導の充実
(5)「委員会制」の導入による学校活性化
(6)留学生教育の向上
(7)「攻めの学生募集」の推進
- 6 地域社会との関係
(1)学園理念「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」の具現化
(2)関係各校, 機関, 施設との連携強化

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1)「授業の充実」を通じた「教育の質」の向上
- (2)豊かな人間力の育成
- (3)退学者・不登校生の減少対策
- (4)国家試験・進路指導の充実
 - ①国家試験対策
 - ②就職対策
- (5)「委員会制」の導入による学校活性化
- (6)留学生教育の質の向上
- (7)「攻めの学生募集」の推進

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1	学校の理念は、学生便覧等にも掲載され明確である。「等しく可能性を信じ」、「専門分野の深い知識」のみならず、「誠実、気力、知恵と行動力」を育むことで「社会に貢献」する姿勢は専門学校の理念として相応しく、人格と専門分野での知識・技能を備えた信頼される人材を輩出することで社会に貢献することが目的である。 【教職員アンケート 質問1 3.24】(3.07)
・学校における職業教育の特色は何か。	4	3	2	1	各学科とも専門的な経験を積んだ専任教員を中心に、各業界との連携を重視し、理論と実践のバランスのとれた教育を実施している。各業界の現場で活躍する非常勤講師を豊富に揃え、学生に適切な現場実習の機会を提供するよう努めている。 【教職員アンケート 質問2 2.71】(2.74)
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4	3	2	1	今後、さらに進行する少子高齢化に備え、老人福祉施設、医療機関や地域社会との密接な連携を推進し、社会のニーズに合った将来を見通した学校経営をしている。 【教職員アンケート 質問3 2.95】(3.11)
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	4	3	2	1	オープンキャンパス等の入学前ガイダンスを通じて、また、入学後も保護者説明会、オリエンテーション、定期的校内広報紙、HPでの情報公開等を通じて、繰り返し周知を図っている。全校生に対する学生アンケートを利用して、周知状況は確認している。 【教職員アンケート 質問4 2.81】(2.29) 【学生アンケート 質問1 2.75】(2.59) 平均 2.78(2.44)
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	3	2	1	職業実践専門課程の運営にあたり、各学科と関連業界との情報交換は年間を通じての分科会も設定するなど、年々充実しており、将来的な業界のニーズに対する理解も深まっている。卒業生が将来的な業界のニーズにも応えられるように、各学科ごとのディプロマポリシーを定めている。 【教職員アンケート 質問5 3.14】(2.71)

①課題

学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などを学生・保護者等に周知することについて改善しているが、依然として不足している。また、各学科の目指す人物像の具体化が十分とはいえない。

②今後の改善方策

教職員に対するインナーブランディングを再度進めていく。
一人ひとりの教職員が理念を共有し、広報発信できるようになる。
前年度より改善はしているが、学校の存在価値を高めるべく研修を行っていく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	3	2	1	地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関として成長するという岩永学園グループの目的を実現するため、グループ内の社会福祉施設はもちろん、地域の病院、福祉施設、整骨院等の業界との連携を密にし、より実践的な教育を目指した運営方針が策定されている。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	3	2	1	事業計画は、地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関となるという学校の運営方針に沿って、毎年度初めに2年、3年後までの見直しをもった具体的な事業計画が示されている。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	3	2	1	学校運営方針に基づき、各種委員会組織を設置し、定期的な部課長・学科長会議および職員会議を開催し、具体的な活動計画を定め、実行している。
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3	2	1	就業規則により明確に定められている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	3	2	1	教務担当の教務部と総務部学務課、財務担当の総務部総務課がそれぞれ整備されている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1	地域自治会への積極的参加、教育課程編成委員会等を通じて、業界や地域社会へのコンプライアンス体制が整備されている。 【教職員アンケート 質問11 2.81】(2.61)
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会、学校ホームページや、学生募集活動におけるガイダンスやオープンキャンパスなどを通じて、積極的に教育活動を外部に対して情報公開している。求められている内容について、可能な限りの手段で積極的に外部への情報公開をしている。 【教職員アンケート 質問12 3.10】(2.93)
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	3	2	1	従来から学校内情報システムのネットワークが整備されていたが、現在、より機能を充実させた自社開発の新システムがほぼ完成し、運用を始めている。従来のシステムに比べて、さらに有効に機能している。 【教職員アンケート 質問13 2.19】(2.14)

①課題

各種会議及び委員会は開催はできているが、定期的・継続的なものとなっていない。
また、情報システム化等の業務効率は依然として大きな課題である。

②今後の改善方策

学内グループウェア(KokoroNet)の運用方法について更に改善をし業務効率を上げていく。
オンライン化を進めて、非効率業務の整理を進める。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2	1	本校の教育理念に基づき、関連業界とも連携しながら社会に役立つ人材の育成に向けて、実践的な職業教育を意識して教育課程の編成と実施が実行されている。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき修業年限や学習時間、目標とする到達レベルが明確にされている。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき体系的なカリキュラム編成を行っている。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会等を通じてより実践に近い形での教育が行われるよう工夫に努めている。 【教職員アンケート 質問17 2.95】(2.61)
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	3	2	1	臨床実習や介護実習を通して、産学連携による実践的な職業教育がなされている。
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	3	2	1	前期と後期の終わりに、すべてのクラスで授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を集計し、学校自己評価の評価材料としている。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	3	2	1	専門課程はいずれも職業実践専門課程として認可を受けており、教育課程編成委員会およびその分科会も開き、外部評価を受けている。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	3	2	1	学則および各種規程に基づき、成績評価、単位認定、進級判定、卒業判定の基準は明確にされている。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき、資格取得に関する指導体制、カリキュラムなどが体系的に位置づけられている。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	3	2	1	国家資格の養成施設指定規則に則り、適切な資格要件はもちろん、臨床指導力も優れた教員を確保している。 【教職員アンケート 質問23 2.48】(2.61)
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	3	2	1	教員の一部は、関連業界との連携を深め実践的な知識と技術を維持するように、臨床現場も業務の中に組み込みながら、教育業務とのバランスをとっている。関連業界とは教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会などを通じて、定期的に現場と学校教員との意識や知識の共有を図っている。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	3	2	1	教員が関連の主要な学会や研修会に参加して、研鑽を積み取り組みをしている。また、新任教職員に対して、全般的な組織理解や指導力向上のための研修を実施している。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	3	2	1	毎年年に3回全職員による教職員研修会を開催した。その他、必要に応じて教職員を選び適宜、外部の研修に参加させている。但し、今年度は新型コロナの影響で実施できなかった。

①課題

社会の変化や学生の多様化に対応できる教職員の資質向上が課題である。

②今後の改善方策

学園研修会では、学科より講師を選任し学科間の理解を深める。組織改編により、教育1部(理学・介護・日本語科)教育2部(柔整科、鍼灸科)として学科間の縦割りを無くすように努める。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・就職率の向上が図られているか。	4	3	2	1	業界の信頼もいただき、就職率は各学科とも毎年、100%と高い水準が維持されている。
・資格取得率の向上が図られているか。	4	3	2	1	資格取得率の向上は図られている。国家資格試験の合格率は、全体的に全国平均以上の結果である。 【教職員アンケート 質問28 3.05】(2.75) 【学生アンケート 質問3 3.11】(3.06) 平均 3.08(2.91)
・退学率の低減が図られているか。	4	3	2	1	問題を抱える学生およびその家族とは頻繁に面談を行い、退学率の低減に努めている。 【教職員アンケート 質問29 2.95】(2.46) 【学生アンケート 質問4 2.81】(2.68) 平均 2.88(2.57)
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	3	2	1	卒業生の業界での活躍の情報を在校生に周知し、学習意欲の向上にある程度役立っている。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1	同窓会組織が充実して、卒業生の体験を聞く機会をもっている。同窓会組織のない学科でも、外部講師による講習会を実施の際は、卒業生も広く呼びかけ、キャリア形成の促進に努めている。 【教職員アンケート 質問31 2.38】(2.21) 【学生アンケート 質問6 2.69】(2.68) 平均 2.53(2.45)

①課題

卒業生へのフォローについては課題が残る。
「国試対策の卒後教育」については多くの学科において取組みが見られたが、いわゆるリカレント教育についてはまだ学科間での差異は大きい。(特に今年度は新型コロナの影響で卒後研修は実施できていない)

②今後の改善方策

引き続き、各学科の卒後教育担当者を中心に卒業生のネットワークを広げていく。
各学科において、卒業生講話を授業に組み込み卒業後のイメージを持たせるようにする。
その他、広報募集媒体においても、卒業生の活躍を取り上げキャリア形成を促していく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1	関係企業に呼びかけ校内で就職説明会を開くなど、在校生の就職活動を支援している。また、卒業後も学園グループの人材紹介事業会社を通じて就職活動の支援に努めている。 【教職員アンケート 質問32 2.95】(2.79) 【学生アンケート 質問7 2.85】(2.87) 平均 2.9(2.83)
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4	3	2 1	クラス担任を通じた相談、心理カウンセラー窓口を通じた相談等、複数の相談窓口も整備している。 【教職員アンケート 質問33 3.05】(2.86) 【学生アンケート 質問8 2.78】(2.90) 平均 2.92(2.88)
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	3	2 1	私立専門学校授業料等軽減補助金(高等教育無償化)機関認定を受けている。また、各種奨学金申請及び採用にかかわる手続きの支援を積極的に行い、並行して経済的状況に応じた校納金分納の相談にも応じている。併せて、今年度は新型コロナに関する各種支援制度の活用を積極的に進め学生支援を実施している。
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3	2 1	定期的な健康診断はもちろん、常勤看護師を中心とした衛生管理、生活指導委員会を中心とした安全・衛生指導を通じて、学生の健康管理の指導を徹底している。 【教職員アンケート 質問35 2.71】(2.57) 【学生アンケート 質問10 2.86】(2.66) 平均 2.79(2.62)
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1	支援制度により学生団体活動が整備されていて、有効に機能している。 【教職員アンケート 質問36 2.48】(2.50) 【学生アンケート 質問11 2.67】(2.77) 平均 2.58(2.64)
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	3	2 1	遠隔地からの通学者の支援を行っている。特に島原地区からは往復のスクールバスを運行している。また、最寄の駅から学校へのスクールバスを運行し通学への支援を行っている。留学生寮の設置及び整備を進めている。 【教職員アンケート 質問37 2.43】(2.14) 【学生アンケート 質問12 2.77】(2.69) 平均 2.60(2.42)
・保護者と適切に連携しているか。	4	3	2 1	入学前からの面談、入学後の保護者説明会、成績状況に応じた適宜の保護者面談等を通じて、保護者との連携を重視している。 【教職員アンケート 質問38 2.76】(2.82) 【学生アンケート 質問13 2.97】(2.90) 平均 2.87(2.86)
・卒業生への支援体制はあるか。	4	3	2 1	不定期ながら、主に卒業生を対象に上級の専門知識や技能の公開講座を開いている。また、卒業生に対しても、就職や転職の情報交換の場を提供し、卒業後の支援にも努めている。(今年度は新型コロナのため実施していない) 【教職員アンケート 質問39 2.29】(2.29) 【学生アンケート 質問14 2.65】(2.78) 平均 2.47(2.54)
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	3	2 1	学校が高台中腹にあり、通学に若干負担があるため、働いている社会人が多い夜間部の学生には、校内への車の乗入れを許可制にしている。また、最寄り駅に、迎いのスクールバスを出している。 【教職員アンケート 質問40 2.76】(2.43) 【学生アンケート 質問15 2.78】(2.72) 平均 2.77(2.58)
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	3	2 1	高校でのガイダンス授業に加え、高校の要望に応え正規の時間割での定期的な出前授業を実施している。 【教職員アンケート 質問41 2.76】(2.75)

①課題

学生支援については概ね改善している。

②今後の改善方策

高等教育無償化対象機関要件を引き続きクリアするとともに、新型コロナの影響を受けている学生については、引き続き速やかな支援制度の利用を促していく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・施設・設備は, 教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	4	3	2	1	施設基準は満たしており, なおかつ教室および共有区域などはスペースを確保している。備品の一部には開校以来の物もあり, 老朽化しつつあるものもあるが, 教育上の支障がないよう, 備品管理委員会が中心となって適時, 更新している。
・学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4	3	2	1	学外の必要な臨床実習施設は確保している。 【教職員アンケート 質問43 2.57】(2.32) 【学生アンケート 質問17 2.89】(2.82) 平均 2.73(2.57)
・防災に対する体制は整備されているか。	4	3	2	1	防災訓練は最低年1回は全校で実施している。各設備の防災責任者が定められている。毎年度, 防災組織の指示系統が更新されている。 【教職員アンケート 質問44 3.14】(2.89) 【学生アンケート 質問18 2.91】(2.90) 平均 3.03(2.90)

①課題

施設・設備に対するアンケート回答では, 教職員の不足感が改善されているが満足度は低い。各種備品の老朽化などの課題については一つ一つ更新することで対応していく。

②今後の改善方策

在校生数減少による学校財務の許容される範囲内で, 安定した教育環境の構築に向けて設備投資を進めていく。

③特記事項

オンライン化に伴う設備投資については, 県の支援制度等も考慮し進めていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学生募集活動は、適正に行われているか。	4	3	2	1	高校新卒者の募集にあたって、入学試験を10月以降に実施しているが、出願については県の専門学校各種学校連合会での取り決めに沿う必要がある。その他、学生募集は適正に行われている。 【教職員アンケート 質問45 3.24】(2.96)
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	3	2	1	学生募集活動において、卒業生の就職率、資格試験の合格率、退学率など、正確に伝えられている。 【教職員アンケート 質問46 3.24】(3.11)
・学納金は妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	本校の学納金は、同分野の他の学校の平均的な水準と同等である。 【教職員アンケート 質問47 3.19】(2.93) 【学生アンケート 質問19 2.65(2.80), 質問20 2.74(2.77)】 平均 2.86(2.83)

①課題

募集活動のオンライン化が一気に加速し遅れをとっている。
加えて、本校学科の社会的認知度は減少する一方であり、学校単体の広報活動では潜在層の拡大という大きな課題に対応できない。

②今後の改善方策

学生との接触回数が減少していく中で、よりコンテンツ力のある広報素材・媒体の構築に取り組む。
また、SNSなどの学校情報配信も拡大し、学校全体の広報に取り組んでいく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	3	2	1	少子高齢化の中, 入学者数の確保のため学科等の教育内容の刷新を行うとともに, 経費の圧縮等で財務基盤の安定化を図っている。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	予算作成に際して, 理事長査定を実施し, 適切な予算管理を行っている。
・財務について会計監査が適性に行われているか。	4	3	2	1	適時, 内部監査を実施している。
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4	3	2	1	HPでの情報公開等しっかりと対応できている。

①課題

退学者数は減少傾向にあるが, 入学者数が横ばいとなっている。また, 新型コロナウイルス感染症の影響により外国人留学生の入国が出来ず, 見込んでいた売上よりも大きく落ち込んでいる。

②今後の改善方策

令和2年度は, 経費について, 大幅な削減を実現できている。新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着くと, 外国人留学生の入国が以前の水準に戻ることで, 財務状況の大幅な改善が見込まれる。また, 日本人学生については, 入学者数の確保だけでなく, 退学者の防止も最重要項目として, 学生数の確保に取り組み, 改善を図る。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・法令, 専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	3	2	1	学校教育法, 養成施設指定規則等の法令に従った適正な運営がなされており, 申請書, 届出書, 学校運営に係る記録等は確実に保管されている。国や県の監督部署の指導調査で指摘された事項は改善されている。
・個人情報に関し, その保護のための対策がとられているか。	4	3	2	1	学生個人調書等の個人記録は施錠できるキャビネットに保管して部外者のアクセスを防止すると共に, 情報の持ち出しを禁じている。全職員を通じて, 個人情報管理意識の向上に努めている。
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3	2	1	学校自己評価委員会の下, 各項目に対して, 自己評価を実施し, 各部署, 学科でそれぞれの問題点は具体的に把握し新委員会による横断的な点検と改善も併せて推進している。
・自己評価結果を公開しているか。	4	3	2	1	自己評価結果は学校ホームページ上で公開している。

①課題

個人情報のセキュリティについて課題が残る。

②今後の改善方策

個人情報保護について再度必要性及び制度趣旨を周知し管理していく。

③特記事項

無し

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1	
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4 3 2 1	外部講師の講習会等で学校の教育設備を利用していたり、学生の地域ボランティア活動や、学校設備の地域自治会への利用、災害予防のための一時避難場所等の提供を行っている。
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4 3 2 1	ボランティア募集情報を全学生にも周知し、地域ボランティア依頼の受入れ、実施のシステムを構築している。学校を通じたボランティア募集による活動は、必要に応じて教員も引率を行い、把握している。 【教職員アンケート 質問57 2.90】(3.11) 【学生アンケート 質問21 2.75】(2.91) 平均 2.83(3.01)
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	4 3 2 1	職業訓練校からの委託を受けて受講者の教育を積極的に実施している。健康講座など一般向け講座も独自に企画し地域の自治会で開催しており、成果は参加者アンケートを取り、評価されている。受託事業の管理と報告は適性になされている。

①課題

本年度は新型コロナの影響により、ボランティア活動や社会貢献活動はできなかったが、教職員学生の意識は高い。しかし、参加学生は限られており、今後は学校として一体となった活動ができるかが課題である。

②今後の改善方策

スポーツ系のボランティア活動については引き続き「ココサポ」が担う。ココサポは委員会ではなく、独立した活動主体として派遣を重ねていく。その他、各種ボランティア活動については積極的に参加し、学園ビジョンの実現を図っていく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1	
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。	4 (3) 2 1	外国人留学生が資格取得可能な学科については、留学生の受入れを積極的に行っている。資格取得学科に進学が可能となる日本語科も平成30年度から設置している。 【教職員アンケート 質問59 2.90】(2.68)
・留学生の受入れ・派遣, 在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4 3 (2) 1	外国人留学生の受入れに関し, 専門の職員を配し, 現地での慎重な審査を行ったうえで適切な入国管理手続きを行っている。在校生については日々の記録を整備し, 適切な在籍管理を行っている。 【教職員アンケート 質問60 2.81】(2.86)
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4 3 (2) 1	留学生担当の職員を配するほか, 学科を横断した教員による留学生の学習, 生活指導担当の委員会を作り, 全校をあげての組織的な取り組みを行っている。
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4 3 (2) 1	海外向けサイトの登録の他情報配信している。

①課題

留学生の就労管理が課題となっている。
オーバーワーク(週28時間以上のアルバイト)をさせないように、どのように管理を続けるのか課題がある。

②今後の改善方策

昨年度にオーバーワーク案件を受け新しく設定した留学生管理強化を継続する。
具体的には、担任により個人面談(2カ月に1回)を実施し、学習指導のほか生活指導まで行う。
また、生活指導については生活指導担当者を学生部に配置し、介護科と日本語科双方の管理を行う。
その他、所得把握のために、アルバイト訪問や所得証明書を入手する等、客観的なエビデンスにて指導を行う。

③特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和2年度重点目標に対する総括

(1)「授業の充実」を通じた「教育の質」の向上

①日常の「授業の質」の向上を通じた学生や保護者の願いに応える教育の推進

- 学校評価結果から見ても、「先生は、学生にわかる授業をしてくれる」、「先生は、学生のために熱心に授業をしてくれる」、「学生一人ひとりに思いを寄せた進路指導をしてくれる」等、高い評価結果が出ている。
- 1日1回は、校長による授業状況確認を目的として校長の教室巡回をしているが、学生の授業への取り組みも熱心である。学生と教員の信頼関係も良好であり、トラブルもない。
- 新任教員については、「一般研修」と「授業研修」を入れ込んだ「新任教員研修」を年間計画に基づいて実施して資質向上に努めている。

②学生の「意志ある学び」に繋ぐ教員の学級経営力と学生指導力の向上

- 学生個人には、国家試験も進路実現も「自分事」であるという意識を持ち、感じ→気づき→考える姿勢を持って学びに向かって欲しいと思っている。
- 専門学校の学生としてしっかりと「学びの目的」を持っている学生が多く、日常の授業等への取り組みも熱心であるが、学級経営を通じて自律を促す指導が不可欠である。

③学生の多様化・学力低下傾向に対する対応と粘り強い指導の推進

- 毎年、学生の多様化・学力低下傾向は顕著になっており、高校との橋渡し指導や国家試験に向けた基礎学力向上対策は不可欠である。
- 2年前から「入学前教育」を導入して、その結果に応じて「学力不足」の学生には、年間を通じて支援教育を実施したり、各学科毎に補充・補講等を実施している。

(2)豊かな人間力の育成

①学級経営の充実と学生間の人間関係、学生と教職員の信頼関係の構築

- 本年度の教育目標に「各学科の専門力を含めた人間としての総合力」を育成することを掲げて、人に納得してもらえる専門知識・技術と人に尊敬してもらえる人間力の育成に努めている。
- 将来は、人を相手にすることを通して仕事をする学生達であることを考えて、学級経営の充実を図り、豊かなコミュニケーション力等を育てている。学生間及び学生と教員間の関係も良好と言える。

②学園理念を意図した社会貢献活動と地域交流等の推進

- 学園理念に「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」と掲げて、地域に開かれた学校づくりを推進している。
- 本校では、校内に「地域創生委員会」を立ち上げて、地域社会や関係機関等との対応、各学科との調整、実施計画の作成等々に当たっているが、今年度は、コロナ禍の中で殆ど活動できなかった。

(3)退学者・不登校生の減少対策

①個別面談(年3回以上)実施と学生一人ひとりの存在感を高める指導

- 学生の指導には、学生理解の深化が不可欠であることから、年3回以上の個別面談を実施し、学力、進路、生活等の支援をしている。
- 学生と教員の信頼関係も構築され、昨年度比22名の退学者減に繋がっていることの意義がある。

②定期的な「悩み調査」(年3回)の実施と学生理解の深化

- 今年度に予定していた「悩み調査」の実施は、全学生には実施できなかった。
- 留学生に関しては、2ヶ月に1回、「生活の記録」と「留学生実態アンケート」を学園挙げて実施し、留学生理解と留学生の生活等の支援に努めている。

(4)国家試験・進路指導の充実

①国家試験対策

○各学科の「国家試験年間指導計画」に基づく計画的・組織的な指導の推進

各学科共に作成した「国家試験年間指導計画」に基づく計画的・組織的な指導の推進

- 各学科及び学校として計画的・組織的な指導を推進している。また、定期的に学科会を開催し、校長や副校長による「学科長ヒヤリング」を2カ月に1回の予定で実施し、学力の実態調査と成果に繋がる対策を進めている。コロナ禍とは言え、各学科とも高合格率に繋がっている。

○「模擬試験結果分析会」と「学力検討会」等の開催と「学科会」の定例化

- 本年度は、「組織として機能する学校づくり」を目標として進めている。その一環として国家試験対策や模擬試験結果に関しても、特に、定期開催の「学科会」で学力分析等を行い、情報を共有すると共に、成果に繋がる具体的な指導の推進をしてきたことで確実に成果に繋がっている。新入生の「入学前教育」は、広報課が中心となり、学科を超えて学校として基礎学力養成に努めている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和2年度重点目標に対する総括

②就職対策

○個別面談と年間指導計画に基づいた就職指導と「キャリア教育」の推進

本校では、最終学年までの見通しを持った進路指導の推進をしている。

「各学年毎に必要な教育は、必要な時にちゃんとする」という共通理解に基づいて、各学科ごとの1年次からの進路説明会、進路後援会等のキャリア教育や臨床(介護)実習等を実施し、進路意識の高揚に努めている。

国家試験、進路実現等「すべては自分事である」という指導を継続し、自己意識啓発に努め、「学びの基礎づくり」に努力している。

コロナ禍で課題の残った令和2年度であったが、各学年ともに就職率100%達成は可能と見ている。

○「卒後教育」の充実

卒後教育は、可能な範囲で実施はしたが、コロナ禍の中で予定していた計画の十分な実施はできなかった。

(5)「委員会制」の導入による学校活性化

①学校自己評価(年2回)による問題解決と学校活性化

前期・後期の学校自己評価結果に基づいて、実態把握、結果分析、課題発見、問題解決方策等の検討をして、全体提案を通して問題解決に繋ぎ、学校活性化を図ることを狙いとして実施している。

②「組織として機能する学校づくり」と職員一人ひとりのスキルアップ

「委員会制」は、PDCAに代わる取組みであり、特に、ミドルリーダーの学校経営への参画と人材育成もねらいの一つとして進めているが、現状としては、予想している成果には届いていない状況である。

(6)留学生教育の質の向上

①日本語能力試験での全留学生のN4以上合格達成と大学を含めた進路開拓

本年度の2年生12名の資格取得状況はN3-1名、N4-5名、N5-6名である。期待していた結果が出ていない状況であることから指導計画の見直しをしている。

1年生42名は全員N5取得者であるが、資格試験は未受験である。

②留学生指導体制の構築と学園内連携の強化

学力面では、入学時には学力だが目立ったが、途中から学力別学級編成を導入したことから、学生の学力に応じた行き届いた指導が可能になっており、学びの意識は高まった。

生活面では、学科のきめ細やかな指導が行き届いており、オーバーワーク等の問題はあったが、例年になく問題は少なかった。

学園全体で、「生活の記録」「留学生生活実態アンケート」を2カ月に1回実施し、個別面談等を実施して、留学生の意識啓発、学習・生活支援に努め、諸問題に関して、定期的開催している「留学生担当者会議」で学園他校と情報を共有し留学生指導の充実を図っている。

(7)「攻めの学生募集」の推進

①高校との関係強化と信頼関係の構築-学校訪問・情報提供・広報啓発等

例年以上に高校との関係構築は進んでいる。年4回の校長高校訪問、年間ガイダンスへの参加、各種オンラインへの対応のほか、積極的な関りをいただくことができた。少しずつではあるが、「医療福祉のこころ医療」という認識が深まりつつあることも大きい。

②学校体制としての学生募集の推進-広報課を中心に全員で取り組む学生募集

本年度の成果は、長崎校全体で124名で前年比12名増であった。学科別では、理学療法科36名、介護福祉科53名、スポーツ柔整科19名、スポーツ鍼灸科16名である。特に日本語科が世界的なコロナ感染拡大のために次年度の留学生入学が見込めていないことは問題である。

1. 学校の教育目標 令和3年度

1 ビジョン

地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる

2 ビジョンの実現に向けたテーマ

地域社会から必要とされる組織であり続ける

地域社会から必要とされる人材を提供する

3 学校経営スローガン 各学科の「専門力を含めた人間としての総合力」の育成

4 重点教育目標

(1)「授業の充実」を中心に置いた学校経営の推進

(2)国家試験合格率及び就職率100%達成

(3)留学生指導の質の向上とJLPT4級以上全員合格の達成

(4)「委員会制」の充実による学校活性化と人材育成

(5)学校体制として取り組む学生募集-最低確保学生数:130名

5 具体的な対策

(1)「授業の充実」を通じた「教育の質」の向上

(2)豊かな人間力の育成

(3)退学者・不登校生の減少対策の推進

(4)国家試験・進路指導の充実

(5)「委員会制」の充実による学校活性化

(6)留学生教育の質の向上

(7)「攻めの学生募集」の推進

(8)卒後教育・リカレント教育の推進

6 地域社会との関係

(1)学園理念「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」の具現化

(2)関係各校, 機関, 施設との連携強化

2. 令和3年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1)「授業の充実」を通じた「教育の質」の向上
 - ①「教育の質」の向上を通じた学生や保護者の願いに応える教育の推進
 - ②学生の「意志ある学び」に繋ぐ教員の学生指導力と学級経営力の向上
 - ③学生の多様化・学力低下傾向に対する創意工夫と粘り強い指導の推進
- (2)豊かな人間力の育成
 - ①学級経営の充実と学生相互の人間関係、学生と教職員の信頼関係の構築
 - ②社会貢献活動と地域交流等「開かれた学校づくり」の推進
- (3)退学者・不登校生の減少対策の推進
 - ①学生の「自律」から「自立」に向けた支援体制の強化
 - ②個別面談等の実施と学生一人ひとりの存在感を保証する指導の充実
- (4)国家試験・進路指導の充実
 - ①国家試験対策
 - 各学科の「国家試験年間指導計画」に基づく計画的・組織的な指導の推進
 - 「学科会」の定例化と「模擬試験結果分析会」や「学力検討会」の開催
 - ②就職対策
 - 個を重視した「キャリア教育」と年間指導計画に基づいた就職指導の推進
 - 「導入期教育」の充実
- (5)「委員会制」の充実による学校活性化
 - ①学校自己評価(年2回)による問題解決と学校活性化
 - ②「組織として機能する学校づくり」と職員一人ひとりのスキルアップ
- (6)留学生教育の質の向上
 - ①日本語能力検定試験での全留学生のN4以上合格達成と進路開拓
 - ②留学生の指導体制の構築と学園内連携の強化
- (7)「攻めの学生募集」の推進
 - ①高校との関係強化と信頼関係の構築－学校訪問、情報提供、広報啓発等
 - ②学校体制としての学生募集の推進－広報課を中心に全職員で取り組む学生募集
- (8)卒後教育・リカレント教育の推進
 - ①学生の多様化・低学力化と社会人入学者増加に対応した学び直し教育の実施
 - ②卒業生の資質向上研修会の開催と国家試験不合格卒業生への特別受験講座の開催
 - ③各学科の卒業生ネットワークの構築